

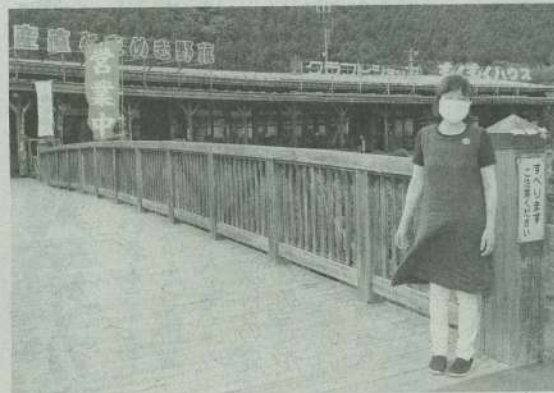
# 歩み 7月

登米市津山地区にある「道の駅津山 もくもくランド」にある津山木工芸品事業協同組合従業員の阿部幸恵さん(58)は、あの日を鮮明に覚えている。

午後2時46分。阿部さんは、併設された木工品などの販売コーナーにいた。水銀灯が激しく揺れ、木工品や地元の農産物加工品などが棚からバタバタと落下した。津山は震度5強。買い物客らを建物の外に避難誘導してしばらくすると、南三陸町志津川地区や戸倉地区の住民が約7キロ内陸にあるもくもくランドに次々と車で避難してきた。

「駅がやられた」「コンビニが流された」。住民らは青ざめた表情でそう話していた。施設が停電し、テレビがつかない中、ラジオでは東北沿岸に津波が到達したことを伝えていた。余震が続き、携帯電話も不通に。夜を迎えた

## 登米・もくもくランド



もくもくランドの前で志津川との絆を語る阿部さん(3日、登米市で)

駐車場は車でいっぱいだった。

「中に入ってください」。車の中で不安そうにしている人たちを見るに見かね、声を掛けた。施設を開放し、40〜50人を招き入れた。ろうそくや懐中電灯で明かりを確保し、近くに住む施設のスタッフらが自宅からストーブを持ち寄って、建物を暖めた。

# 山と海結ぶ 共助精神

「みんな空腹だったろうし、それに疲れ切っていたからね」。阿部さんは津山地区の商店からかき集めたカップラーメンや、小麦粉を持ち寄って作った郷土食「はっと汁」を振る舞った。約10日間、もくもくランドは臨時避難所の役割を果たした。

津山地区は旧津山町。9町による「平成の大合併」で誕生した登米市の中で唯一、本吉郡になる。国道45号でつながる同じ本吉郡の南三陸町の旧志津川町とは、地元では津山を「山側」、志津川を「海側」と呼ぶ人もいるほど結びつきが強い。根付いているのは「困ったときはお互いさま」の共助の気持ちだ。

昨年10月、台風19号による大雨でもくもくランドのそばを流れる南沢川が氾濫し、施設内に大量の土砂が流れ込んだ。地場産の野菜や木工品など数千点が水浸しとな

り、営業中止を余儀なくされた。

ボランティアとして駆けつけたのが、志津川の住民ら。泥のかき出しやがれきの片付けなどを手伝ってくれたほか、同町の南三陸ホテル観洋が、100個以上のおむすびを連日送ってくれた。震災時、ホテルに向かっていた送迎バスの宿泊客をもくもくランドで受け入れてくれたお礼だった。

もくもくランドは約2週間後の10月26日に営業を再開した。山側と海側で、恩を送ったり、送られたり。阿部さんは「お隣同士、地域の絆を守っていききたい」と願う。

南三陸ホテル観洋は今、新型コロナウイルスの感染予防としてフロントに透明の亚克力板が設置されている。津山木工芸品事業協同組合から贈られた手づくり品だ。(岩下亮、7月おわり)

# 宮城



東北総局 〒980-0021  
仙台市青葉区中央2-3-6  
販売仙台ビル内  
電話022-222-4121 F a x 222-8386  
メール tohoku@yomiuri.com  
石巻支局 〒986-0821  
石巻市住吉町2-6-23  
アソシエ21 102号  
電話 0225-96-9601 F a x 96-9602  
大崎支局 〒989-6117  
大崎市古川旭6-4-12  
オフィス佐藤2-b  
電話0229-22-1077 F a x 22-0049  
気仙沼通信部 0226-22-6980  
白石通信部 0224-25-2296  
ホームページ  
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は 0120-4343-81

白石 22-5323 大河原 52-1341  
角田 62-3434 石巻 96-9512  
小牛田涌谷 25-3314  
古川 21-0151 気仙沼 22-0953  
【販売事務】 仙台022-262-5807  
ホームページ  
https://www.miyagi-yomiurik  
ai.com/

【広告】 仙台  
読売エージェンシー東日本022-266-1562  
【折込広告】 仙台 022-387-3300  
【読売旅行】 仙台 022-222-5811

7月16日(木曜日)  
旧 5月26日<赤口>

あすの暦

月齢24.8  
(正午)



仙台標準 鮎川  
日出 4.26 満潮 14.02  
日入 18.59 23.39  
月出 0.38 干潮 6.37  
月入 14.50 17.43  
(若潮)